

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>今年度から新カリキュラムが始動し、見直した教育理念・教育目的は養成所の教育上の特徴を示しており、県からの承認も得ているため、法との整合性も担保されている。今年度の目標であった教育理念・教育目的の掲示・周知は、年間を通して実施できるよう、カリキュラム担当教員・事務と協力し、1年生の講義を担当する外部講師39名全員に説明することができた。</p> <p>卒業時に実施したアンケート調査の結果、100%の学生が、学ぶべき内容が明確であったと回答していたことから、教育理念・教育目的は学習の指針となっていると評価できる。また、教育目標に示した内容について「学校生活の中で身についた」と回答していることから、学習者としての成長を促すことにつながっている。そのなかで、地域貢献の項目については松阪地域に貢献したいと回答した学生は95%であった。引き続き、在学中から地域について知る機会や地域貢献の必要性などを伝えていく。</p> <p>また、実習指導者にも継続して伝えていくことで、実習病院・施設と学校が相互的に作用しあいながら、学生の成長を促すことができるよう、発信を続ける。</p>
II. 教育課程	<p>新カリキュラムの新設科目の実施後は、適宜評価を行い課題の明確化と次年度に向けた改善策の検討を行うことができた。</p> <p>新設科目や見直しを行った科目の中に松阪市内のフィールドワークの実施や松阪地域で活躍する専門職の講義を設けた。学生の授業評価からは松阪地域に対する愛着や多様な視点での学びを読み取ることができた。新たな試みや工夫は養成所の特徴をあらわし、看護師を要請するのに適切な内容であったと考える。</p> <p>新カリキュラム完全移行への過渡期であるが、旧カリキュラムの学生の学びが保証されるよう、実習内容に新カリキュラムの内容を盛り込んだり、リハビリテーション専門学校との共同学習などが実施できた。双方の教員間で指導方法を検討し実施した結果、多職種連携についてより充実した学びが得られ、継ぎ目のない教育が実践できたと考える。</p> <p>初回講義時には担当講師より履修方法についての説明が徹底されており学生への支援に繋がっている。未修得科目のある学生に対する支援も行われ単位修得に繋げることができた。</p> <p>講義終了時に行う授業評価をもとに授業内容や進捗の見直しをすることで、次年度に活かすことができている。評価結果の取り扱いに関しては「特定個人情報取り扱い規程」において厳重に管理されている。</p> <p>今年度も教員の人員不足が続いている。教務主任も不在であったため副学校長が兼任し対応した。また専任教員が業務を一部代替するなど連携・協働体制を発揮し対応してきた。現在、1名の専任教員が教務主任研修受講中であり次年度終了予定である。次年度も教務主任の不在が続くがみんなで協力し対応していく。</p> <p>学習支援システム（スクールギア）の導入で教員の時間の確保が期待される中、前期の課題を調整しながら実施した。システムを活用することでミスを予防することにつながった。</p> <p>次年度も、教員の人員確保、各自の調整能力の向上、学習支援システム（スクールギア）の有効活用、委員会活動の充実により、教員の授業準備のための時間を確保していく必要がある。</p> <p>臨地実習は今年度もコロナ感染症の影響を受け学内実習への変更を余儀なくされた。3年生の領域別実習は在宅看護論実習と統合実習は臨地での実施率100%、それ以外の領域（成人、母性、小児、精神）は50～60%であった。2年生の実習は、老年Ⅰは臨地での実施率100%であったが老年Ⅱと成人Ⅰは50～60%の実施</p>

	<p>率であった。1年生は基礎看護学実習Ⅰ—①は臨地での実施率は0%で全て学内実習となった。Ⅰ—②は臨地実施率60%であった。急遽学内実習に変更になった実習もあったが迅速に対応し、実習病院指導者から遠隔で指導を受けるなど指導体制を整え効果的な実習を行うことができた。患者への実践の機会は少ないが、思考過程を丁寧にを行いアセスメント能力の強化につなげることもできた。これらのことより学生の臨地実習体験の保障は図られていると考える。また、臨地実習後のアンケート結果からは一部の学生より指導方法の統一化や連携体制の強化を望む声があった。指導者と教員の役割分担の明確化、指導方法の統一化をより強化していく必要がある。</p>
<p>Ⅲ. 教授、学習、評価過程</p>	<p>看護技術項目の「卒業時の達成度」が低い項目に関して、学内演習の工夫、実習病院への協力を依頼し学べる環境を整えている。令和7年実施114回看護師国家試験に、新出題基準を適応させるための検討が終了した。教員の授業の見直し、再認識の機会となった。今後反映させた内容を評価していく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた授業の切り替えができています。一部登校できない学生や、臨地実習困難な場合においても、リモートへの切り替えが速やかに行えている。その際、臨地と学内実習との乖離を最小限とどめられるよう実習病院の協力を得、リモートで学内実習に参加頂いている。病院によって温度差があり意図した趣旨を理解いただけないことがあった。今後は、学内実習に参加いただく意義を理解いただき協力を得ていくことが課題である。また臨場感を保てる工夫も考えていく必要がある。</p> <p>シラバスの指導方法の明示、三観を明確にした授業案の作成、初回講義時の授業計画の説明、学生による授業評価は継続できており、今後も継続していく。</p> <p>今年度よりすべての演習において教員同士の協力ができている。教員間のサポート体制の強化、共通認識、学生への一貫した教授につながり、質の向上に寄与している。今後も学生への一貫した指導となるよう継続していく。</p> <p>各教員は評価結果および講義評価をもとに授業改善に取り組んでいる。外部講師には、授業評価を郵送し、カリキュラム担当者が授業の工夫の依頼をした。</p> <p>医学映像等の活用は学生差が大きい。活用の促しや講義内での活用により、年間を通して閲覧回数は2706回から3622回に上昇したが、働きかけがないと閲覧回数は低迷している。今後も意図的に働きかけ学びの定着が図れるようにしたい</p> <p>他校との多職種連携教育を実施した。全国でも少ない試みであり、実施後のアンケートでは「楽しかった」との回答も多く、学生の興味を引き学びたいと思える機会となった。他の職種と関わることで得られる多職種連携の必要性、看護師の役割を認識するよい動機付けの機会となるように今後も実施する。</p>
<p>Ⅳ. 経営、管理過程</p>	<p>教育理念・教育目的、教育課程経営、教育評価、管理運営等による考え方は、管理者により明示されている。又、運営会議や施設長会議は定期的で開催され、その内容の周知もできている。管理者と設置者の意思は一貫しており、教職員はその考え方を理解している。よって体制は維持できており、このまま続けていく。また、組織体制や権限、役割機能は明確になっており、意思決定システムは整えられている。公益社団法人松阪地区医師会組織図に新たに事務主任が加わり、又、実習調整者が任命され実働する予定である。</p> <p>教職員の資質向上に関しては、教育理念・教育目的達成にむけて各自関連する研修会に遠隔にて参加できた。</p> <p>来年度の課題としては、不足となっている教員の増員に努めていく。</p> <p>医師会全体の財政は厳しい状態が続いている。しかしそのような状況でも学生の学習・教育に必要な教材は確保できており、教育の質は維持できた。来年度も引き続き教職員は財政基盤や財政状況を把握し、できる範囲の節約に取り組み教育の質維持に努める。</p> <p>学生支援システムは1年間検討を重ね、出来ることと出来ないことが明確にな</p>

	<p>った。機能や操作を把握したことで後期は前期に比べスムーズに運用することができた。今後は全ての教職員が滞りなく業務を行えるようマニュアルの整備が必要である。また、13台のiPadやWi-Fi環境が整っていることで学生は問題なく学習を続けることができた。今後も学生の学生生活や教職員の業務が円滑に遂行できるように施設を整備していく。</p> <p>本校は実習病院からの奨学金、日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援新制度、厚生労働省教育訓練給付金など、学生が入学後も学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。又、サポーター制度で、3年を通し学生をサポートしており、問題を抱える学生へのタイムリーな支援につながっている。実際、今年度は途中休学・退学者は少なかった。この体制を継続する。</p> <p>年間を通し、関係者（保護者等）への情報提供は、文書や電話、HP等により実施された。特に成績不良の学生の関係者（保護者）に情報提供することで学校・家庭双方で学生を支援することに繋がった。</p> <p>広報活動においては継続的に行事や授業など（トピックス）やInstagramにアップできており、トピックスは43件（昨年43件）、Instagramは36件（昨年11件）であった。トピックスの講師紹介のシリーズは、今年度9名の講師を追加し総数53人に達した。今後も特色のある講師陣を紹介して本校のアピールに繋げて行く。</p> <p>又中間評価からさらに追加された地域にむけた広報活動として、松阪マラソンのボランティアの参加、防災訓練への参加、1年生の学生12名の地域の消防団への入団、フードドライブ活動への参加等、当校の存在を地域に十分アピールできていると考える。結果今年度の受験者数は昨年度より24%増加した。来年度も積極的な地域への広報活動を継続することは重要である。</p> <p>短期計画や年間計画は、予算の基盤を基に備品の購入計画・設備の修繕計画等、具体的に計画運用できている。一方、長期計画は新校舎建て替えのための積み立てはできているものの、具体的な将来構想の話合いが進んでいない。来年度は当校の将来構想について運営会議の議題にあげ、具体的に話し合う機会を設けていく。</p> <p>自己点検・自己評価体制は整えられ、各カテゴリーで課題を明確にしながら活動が行われ、十分に運用できている。例年通り養成所の維持・改善につなげることができた。今後もこの体制を継続していく。</p>
V. 入学	<p>入学者選抜についての考え方は学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項に示されているため継続する。</p> <p>受験者数は低下傾向にあるため受験者数確保のため様々な対策を講じた。例えば、コロナにより中止になっていたガイダンスは昨年12回より今年度20回参加し、対面で多くの学生に本校のアピールができた。また進路相談担当教員と連絡をとり、関係を良好にすることで受験者数の確保に繋がった。また、オープンキャンパスは、本校のアピールができるよう工夫を凝らした内容としたことで、来校時と同様の参加者数となり、99%が受験したいという結果となった。さらに、今年度より、社会人入試や一般入試回数を増やした。これらの対策により受験者数が前年に比べ2割増加となった。また既卒生が制度を利用しながら学業に取り組めるよう専門実践教育訓練給付制度について分かりやすく明記している。今後も質の高い人材の確保ができるよう本校のアピールを行っていく必要がある。</p>
VI. 卒業、就業、進学	<p>20回生の卒業後調査では、例年とは異なった結果がみられた。コロナの影響により、コミュニケーション能力や、技術面、社会人基礎力の部分が低下し、分析力については上昇した。調査結果を受け、3学年の学生に対し、卒業後調査の結果を伝え、改善策を考えるよう働きかけている。また課題であった項目は新カリキュラムでは強化している部分でもあるため、引き続き評価を行っていく。社会人基礎力については低学年から継続的に成長を感じられるようポートフォリオとし</p>

	<p>て保管するよう変更した。今後、主観的・客観的評価ができ、具体的にどの部分を取り組むか明確となると予想される。</p> <p>卒業後調査は各病院によって評価点が大きく異なった。実習先で卒業生からの相談はよく受けることから、コロナ禍で計画通りの実習が行えず卒業した学生にとって、患者への看護はハードルが高いと予想される。今後は、卒業生へのフォローも必要となってくる。実習病院との連携は継続して行えているが、臨床へ学生の状況をフィードバックできていない現状もあるため、更なる情報交換が必要である。</p> <p>定期的な同窓会役員会が実施されている。同窓会発足後5年経過し、令和5年度より新たな役員となる。今年度は同窓会誌も発刊できた。卒業前に同窓会会長より同窓会について説明があることで学生の意識づけが図られている。しかし、卒業生全体の認識としては低く、特に1期生～5期生くらいまでは同窓会の認識も低かったため、全員の把握は困難である。しかしキャリアを積み、様々な分野で活躍している声をたくさん聞く。今後も在校生より愛校心を築き、卒後も団結できるよう少しずつ取り組んでいく必要がある。</p>
<p>VII. 地域社会、国際交流</p>	<p>新カリキュラムにより地域に根差した科目を強化している。フィールドワークや市内の総合病院より保健医療福祉様々な分野からご講義をいただき、地域のニーズを把握できるように取り組んでいる。また、ボランティア活動（ふれあい体育祭、松阪マラソン、災害訓練、消防団など）にも積極的に参加した。今後は地域のニーズについて理解できたことを、学生側から発信できるような働きかけが必要となる。近隣の中学校からの依頼で、進路を考える授業の「わくわくスクール」も4回依頼があり、昨年よりも多く参加し、進路を考える機会をつくり地域貢献に繋げている。今後も積極的に地域活動に参加していく。</p> <p>新カリキュラムとなり、特に臨床英会話は対話を意識した授業構成となっている。外国語についても文化について触れ、日常会話から病院で使用できる簡単な会話を学習している。また発音にも力を入れており、自ら対話できるよう講義内容を工夫して頂いている。実際には学校以外の場でフィリピンの方と会話する機会を自主的にとった学生もおり、フィリピン語が講義を経て身近に感じたからではないかと考える。母性看護学実習ではフィリピンの方を受け持つ機会も多いため、今後学生がどのように発展させることができるかの評価が必要である。</p>
<p>VIII. 研究</p>	<p>今年度は研究・分析についてのOJTが計画され、全教員が3回講義を受けた。SPSSなど研究に関わるテキストも揃えた。今後、研究活動ができるよう準備を少しずつ進めていく。</p> <p>また地域に密着したカリキュラム構成について、医師会を母体とする本校への執筆依頼があり、医学書院にて掲載された。さらに、新カリキュラムの取り組みとして、多職種連携についても看護協会主催の研修会で発表された。今後も本校の取り組みについて発信をしていく。</p>

R 4年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R4年度 評価点数	R3年度 評価点数	R2年度 評価点数
I. 教育理念・教育目的・ 教育目標	3.0	3.0	3.0
II. 教育課程	3.0	2.8	2.8
III. 教授、学習、評価過程	3.0	3.0	3.0
IV. 経営、管理過程	2.9	2.9	2.9
V. 入学	3.0	3.0	3.0
VI. 卒業、就業、進学	2.8	2.8	2.8
VII. 地域社会、国際交流	3.0	3.0	3.0
VIII. 研究	2.3	2.0	2.0

評価点数

